

令和4年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
<p>1 学習指導： ICTの活用を推進するとともに、探究型授業の充実をはかり、主体的に学ぶ生徒を育成する。</p>	<p>① 生徒が「予習→授業→復習」の学習サイクルを確立し、主体的に学習に取り組むようにする。</p>	<p>1, 2年生の平日家庭学習時間平均が3時間以上である生徒が A: 50%以上 B: 45%以上 C: 40%以上 D: 40%未満</p>	<p>1 2月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年生: 34.3% (36.5%) 2年生: 33.5% (44.6%) 1, 2年: 33.9% (40.6%) 【達成度D】</p>	<p>・1, 2年生はH30:40.3%→R1:36.8%→R2:46.8%→R3:40.6%→R4:33.9%、3年生はH30:93.1%→R1:90.8%→R2:91.7%→R3:89.5%→R4:92.0%と変化している。 ・1, 2年生で昨年度より減少している理由としては、通塾者の増加の影響(H30:38.6%→R1:46.1%→R2:49.1%→R3:53.3%→R4:47.8%)と携帯電話の2時間以上の使用者の増加の影響(H30:38.3%→R1:46.1%→R2:49.1%→R3:53.3%→R4:60.4%)があると考えられる。 ・今後は、アンケートの問い方を変更することで授業外での学習時間実態の把握を図る。また、生徒には、携帯電話の使用の自覚を促したり、学習の具体的な方法(予習復習、課題のやり方)を伝えることで学習時間の確保を図る。</p>
	<p>② 変化の激しい社会の中で、生徒が将来様々な問題や課題に直面しても対応できる論理的思考力や表現力を身につけるように授業改善を推進する。</p>	<p>「授業を通して思考力が高まった」、「授業を通して表現力が高まった」の問いに対して「あてはまる」と答える生徒の平均が A: 50%以上 B: 40%以上 C: 30%以上 D: 30%未満</p>	<p>1 2月 生徒による授業評価結果 「あてはまる」と答えた割合 思考力が高まった: 46.2% (44.1%) 表現力が高まった: 41.6% (38.5%) 平均: 43.9% (41.3%) 【達成度B】</p>	<p>・思考力についてはH30:33.3%→R1:38.7%→R2:42.7%→R3:44.1%→R4:46.2%、表現力については、H30:29.3%→R1:33.6%→R2:37.4%→R3:38.5%→R4:41.6%と年々増加している。 ・授業を思考力や表現力を重視する方向へ改善していった結果、評価が上昇したと考えられる。特に今年度は4月から一人一台端末が整備されてきたことで、その活用が進んだことも影響していると思われる。今後も一人一台端末の活用をさらに進め、思考力や表現力を高めていく。</p>
	<p>③ 授業やあらゆる学校行事の機会を利用して、自分の意見や調べたことを発言・発表できる場と雰囲気をつくり、失敗をおそれずに応答や意見発表ができる生徒の増加を図る。</p>	<p>「必要な場面で積極的に発言・発表することができる」と答える生徒が A: 55%以上 B: 50%以上 C: 45%以上 D: 45%未満</p>	<p>1 2月 生徒アンケート結果 よくあてはまる: 20.3% (22.9%) おおむねあてはまる: 50.3% (46.4%) 合計: 70.6% (69.3%) 【達成度A】</p>	<p>・発言・発表することができる生徒は、H30:48.6%→R1:48.1%→R2:67.3%→R3:69.3%→R4:70.6%と年々増加している。 ・今後も、一人一台端末をさらに活用し、意見交換の場や表現する機会を増やす等、様々な機会を作り、生徒の発言・発表の機会を増やしていく。</p>
	<p>④ 探究型授業の基盤となる豊かな知識を身につけるため、生徒の読書活動を推進する。また、二水版ビブリオバトル(競技スタイルの書評プレゼン大会)を充実させることにより、的確な発信力の育成にも一層努める。</p>	<p>図書の貸し出し冊数が A: 4,000冊以上 B: 3,500冊以上 C: 3,000冊以上 D: 3,000冊未満</p>	<p>1月末時点 図書の貸し出し冊数 1,735冊(4,245冊) 1年831冊、2年547冊、3年375冊 【達成度D】</p>	<p>・貸し出し冊数は昨年同期の約4割である。これは過去10年間で一番少ない。理由として、たくさんの本を借りる生徒が減少したことで授業での活用が減ったため本を借りる生徒が少なくなったためである。前者については、上位5人でR3年:959冊、R2年:859冊借りられていたが、R4年:410冊である。後者については、R3:70日、R2:90日に対しR4:36日である。 ・今後は授業での活用を増やすことで、生徒に本を身近に感じてもらうようにする。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・アンケート項目が抽象的であるため、具体的な内容で問いかけるように変更したり、量的な変化だけでなく質的な変化も調べる。 ・年度別の変化だけでなく、同一集団の経年変化を調べる。 ・図書の貸し出し内容について、分類や一人あたりの冊数について把握する。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>・アンケートをより具体的なことについての問い方に変更し、回答欄に記述欄を設けるなどの変更をするとともに、同一集団の経年変化も分析する。 ・図書の貸し出し内容について、分類や一人あたりの冊数を分析することで、適切な貸出方法を検討する。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2 進学指導： 生徒の進路意識の成熟を促し、高い目標を強い意志を持って実現する生徒を育成する。	① 3年学年団と協働し、外部模試の判定結果のみに志望校を左右されずに自己の志望を貫ける生徒を育てる。個人面談や学年集会等で年度当初から声かけを励行する。	3年生の9月段階で難関大・金大を志望する生徒が A：65%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：55%未満	9月 3年第2回志望校調査 難関大・金大の志望者数 235名 全体の62.0% (237名 全体の60.6%) 【達成度B】	・難関大・金大の志望割合はR1:64.6%→R2:58.5%→R3:60.6%→R4:62.0%と約6割で推移している。 ・1、2年生から高い志望を持つような意識づけを行うとともに、志望が実現できる学力の育成をしていきたい。
	② 進路検討会や日常の情報交換を通じて、授業や部活動で関係する生徒の成績を把握し、進路志望について助言に努める。	「授業を受け持つ生徒や顧問をしている部の生徒の成績を把握し、進路志望についての助言に努めているか」の問いに対して、「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	12月 教職員アンケート結果 よくあてはまる：28.6% (37.1%) おおむねあてはまる：51.4% (45.7%) 合計：80.0% (82.8%) 【達成度B】	・教員の割合は、H30:82.8%→R1:88.1%→R2:86.9%→R3:82.8%→R4:80.0%と近年減少の傾向がある。 ・生徒の成績や進路情報については職員会議等を通じて、情報の共有をさらに図るとともに、学年会や進路検討会等の会議だけでなく、担任と授業担当者や顧問が適時、情報交換を行うことで生徒への適切な助言に努める。
	③ 保護者懇談や保護者対象の進路説明会、生徒への面談をとおして、生徒の進路に関して保護者と緊密な情報交換を行い、信頼関係を築く。特に3年生の保護者には、5月に進路説明会を行い、入試制度改革元年である昨年度の入試結果を丁寧に説明する機会とした。	「本校の進路指導や保護者への情報提供は適切であるか」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える保護者が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	12月 保護者アンケート結果 よくあてはまる：17.8% (18.9%) おおむねあてはまる：63.7% (60.9%) 合計：81.5% (79.8%) 【達成度B】	・保護者の割合は、H30:81.5%→R1:83.9%→R2:78.7%→R3:79.8%→R4:81.5%と約8割で推移している。 ・コロナ禍(R2、R3)で進路説明会等での情報提供がオンラインによる配信であったのに対し、今年是对面式の説明会等を行うことができたことにより、コロナ禍前の水準に戻すことができた。 ・今後は、説明会をオンラインの配信や対面を状況により使い分け、より情報提供ができるようにしていきたい。
	④ 担任面談、学年集会、進路講演会、進路説明会等で目標達成に向けての生徒の取り組みを評価し、意欲を高めるとともに、入試対策を充実させることにより進路実績の向上を図る。	現役合格者数が A：金大が80以上かつ難関大が30以上 B：金大が80以上かつ難関大が30未満 C：金大が80未満かつ難関大が30以上 D：金大が80未満かつ難関大が30未満		
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業担当者や部顧問の助言については、モデルを示す。</li> <li>・同一集団の経年変化を調べ、分析する。</li> <li>・アンケートの項目が曖昧なため、結果がわかりにくいものになっている。</li> <li>・理系女子の人数を増やす。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業担当者や部顧問の助言について、効果のあった助言について、まとめ共有する。</li> <li>・5年前からの同一集団の経年変化について分析し、その結果をもとに具体的な方策を検討する。</li> <li>・アンケートの項目を具体的なものに置き換える。</li> <li>・行事等での講師に、ロールモデルとなるような女性講師を依頼することで、女子生徒の理系に対する意識を高める。</li> </ul>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
3 生徒指導・部活動: 人間形成に主眼をおいた生徒指導を行い、進学校にふさわしい部活動を追求する。	① 効率的な部活動による生徒の学習時間の確保や、学習環境の整備に努めるとともに、部員が主体的に活動する指導を工夫し、技能や成績を向上させる。部活動で得た自信を勉学につなげ真の文武両道を目指す。	① 「勉強と部活動の両立ができている」と答える生徒が A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満 ② 高校総体の学校順位が A : 8位以上 B : 10位以上 C : 12位以上 D : 13位以下	① 12月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年 : 67.9% 2年 : 63.4% (71.9%) (74.5%) 3年 : 88.9% 全体 : 73.4% (79.4%) (75.2%) 【達成度B】 ② 県高校総体の学校順位 男子 16位以下 (17位) 女子 7位 (10位) 総合 14位 (11位) 【達成度D】	① 生徒の全体の割合は、H30:73.9%→R1:78.0%→R2:75.8%→R3:75.2%→R4:73.4%と推移している。学年別では3年生の評価が高い。このアンケートは部活動に入っている生徒のみを対象(1年:308人、2年:263人、3年:72人)としており、3年生では部活動を継続したものが答えているため高くなっている。1・2年生については両立できるように、顧問や担任が適切な助言を行うように努める。 ② 総合成績は、H30:14位→R1:9位→R2:順位無し→R3:11位→R4:14位と推移している。今年度についてはコロナ禍による休校や部活動停止などで部活動が十分できなかったことが影響していると考えられる。今後は状況を踏まえて、コロナ禍以前の部活動に戻すようにしていく。
	② 生徒が自主的に挨拶を行うよう、教職員自らが積極的に挨拶を行い、教職員、生徒の自覚をさらに高める。	「挨拶はしっかり行っている」と答える生徒が A : 60%以上 B : 40%以上 C : 20%以上 D : 20%未満	12月 生徒アンケート結果 よくあてはまると答えた割合 1年 : 42.2% 2年 : 35.4% (43.8%) (44.1%) 3年 : 40.0% 全体 : 39.2% (39.2%) (42.4%) 【達成度C】	・アンケートでは、H30:33.8%→R1:42.7%→R2:37.8%→R3:42.4%→R4:39.2%と約4割で推移している。 ・挨拶については今後も継続して、挨拶運動を続けている野球部や生徒会執行部等の生徒たちとともに、教職員も挨拶を行い、挨拶をしっかりと行う生徒を育てていく。
	③ 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケート、個人面談・保護者懇談や学校行事等の取り組みを確実に実施することで、いじめの発生を防ぐ。	「十分取り組んでいる」と「取り組んでいる」と答える教員が A : 95%以上 B : 90%以上 C : 75%以上 D : 75%未満	12月 教職員アンケート結果 十分取り組んでいる : 47.1% (45.7%) 取り組んでいる : 51.4% (50.0%) 合計 : 98.5% (95.7%) 【達成度A】	・教員の割合は、H30:98.5%→R1:92.6%→R2:97.2%→R3:95.7%→R4:98.5%と高い水準で推移している。 ・日頃の観察に加え、いじめアンケートや個人面談、保護者懇談で生徒を把握するとともに、研修等で対応を学ぶことで、「いじめ防止基本方針」に則った細かな指導を行う。特に相談室や保健室、生徒課との連携を強化し、早期発見、解決に努め、「十分取り組んでいる」の割合を高める。
	④ 日頃からの生徒観察をおしで気づいたことを見逃さず、すばやく共通理解を図り、学校全体が連携して的確な対応を組織的に行い、心身の調和を基盤とした生徒の人間形成を図る。	「担任・教育相談室・保健室等と連携し、問題(悩み)等を抱える生徒の早期発見・早期解決に努めているか」の問いに対して「よくあてはまる」と答える教員が A : 70%以上 B : 60%以上 C : 50%以上 D : 50%未満	12月 教職員アンケート結果 よくあてはまる : 48.6% (57.1%) 【達成度D】	・教員の割合は、H30:58.6%→R1:57.4%→R2:58.6%→R3:57.1%→R4:48.6%と推移している。今年度はこれまでに比べると約9ポイント下がっている。 ・この項目は、前項と同様に本来職員全員が努めるべき項目であることから、職員の意識を高めていくことが必要である。
学校関係者評価委員会の評価	・不登校でいじめが原因になっていないか注意する。 ・不登校の生徒の高校後の対応についても考える。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・いじめについてはアンケートや生徒観察を行うことにより早期発見に努める。 ・不登校等については、これまでに引き続き、専門的な知見を持ったスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関等と連携を強め、取り組んでいく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カック内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
4 学校組織：業務の効率化を進めつつ高い使命感を共有しよりよい教育活動を追求する。	タイムマネジメントについて意識を高め、業務の見直しや会議運営の効率化、ICTスキル向上等により職員のワークライフバランスを図り、教育活動の質を高める。	「効率化やタイムマネジメントを意識した業務の遂行に努めている。」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が、 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	12月 教職員アンケート結果 よくあてはまる：27.1% (30.0%) おおむねあてはまる：64.3% (54.3%) 合計：91.4% (84.3%) 【達成度A】	・教員の割合は、R2:84.3%→R3:84.3%→R4:91.4%と増加しているが、「よくあてはまる」はR2:31.4%→R3:30.0%→R4:27.1%と徐々に減少している。 ・職員の意識は高まっているが、まだ十分な取組にはなっていない。 ・新学習指導要領の進行やGIGAスクールでの一人一台端末の活用などに係る業務により、教職員の負担は増えている。そのため、教材の共有化や定型業務のマニュアル化などにより、業務改善の効率化に引き続き努めていく。
学校関係者評価委員会の評価	・教員のメンタルヘルスキューアのための具体的な方法を検討する。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・メンタルヘルスキューアとして、仕事の量と質や労働時間の管理などの「働きやすい環境作り」及びストレスチェックを活用した「早期発見・適切な対応」に取り組む。			